

田子町ビジネスチャレンジ支援事業費補助金 活用事例レポート

挑戦者の声 Vol.1

かまた ひでき
株式会社肉の博明 専務 鎌田 英興 さん

補助対象事業

- 令和 元年 常温保存ができる商品の開発及び商品化(田子牛・陸奥ホタテ入りしぐれ煮)
- 令和 2年 田子牛とたっこにんにくのアヒージョの開発・商品化
- 令和 3年 青森銀行 ビジネスマッチング商談会
- 令和 5年 田子牛とたっこにんにくを使ったパスタソースの商品化と広告宣伝



田子町の美味しい肉で 新たな土産品を開発したい

補助金制度を何で知りましたか？

行政配布物のチラシです。

活用に至ったきっかけは？

青森県よろず支援拠点に相談していた時期に、相談員の方から「田子町独自の補助金制度があると思いますよ」とアドバイスがありました。行政配布物のチラシを見たとき「あった！これだ！」とチャレンジを決めました。



田子町で挑戦する人を応援します！

田子町ビジネスチャレンジ支援事業費補助金制度 活用事例レポート

補助金活用後、現在の事業に影響がありましたか？

宣伝広告の事業ではコミュニティーFM(ラジオ)でPR、田子町長への表敬訪問(完成報告・試食)など多くの経験をさせていただきました。効果的だったことは、コミュニティーFM(ラジオ)の刷り込み効果です。放送を聞いてお客様が何度も来店。バラ焼き(精肉と野菜を混ぜ合わせた商品)は二戸にないから買いに来ていると話していたことから商圏の市場を知ることになりました。

活用したことで地域に貢献できたことは？

パスタソースタッコネーゼのパッケージ裏面は観光案内を印刷しています。商品を買った人が田子に来てくれるきっかけになればとチャレンジしました。



ご自身の事業によって田子町の課題解決に寄与したと思われることは？

令和3年サンモールたっこ商店街にある大きな空き店舗のシャッターを開けたことです。町内事業者さんの商品を取り扱い、新たな販路として捉えてもらえるような取り組みを始めました。また、飲食店が少ない田子町で美味しい肉を手軽に楽しめる飲食スペースも併設しました。

この制度と支援について聞きました。

事業者の事業成長に必要な補助金制度の改善点は？

青森県よろず支援拠点相談員の方など支援の専門家からは、田子町の補助制度は素晴らしいと言われました。現在のビジネスチャレンジは、事業の初期段階として良いのではないかと思います。その後成長が必要なタイミングに合わせた上限額、補助率の設定があると田子でも新事業が定着するのではないかと思います。

新たなチャレンジを経験し今後必要な商工業支援は？

- ・ 小規模の相談会(町のPR+マッチング)
- ・ お土産販売店等のバイヤーからお客様のニーズを聞き、商品開発に繋げるような取り組み。